



①輸入の毛に頼っているといわれる化粧筆。県猟友会女性部では、SDGsの観点から駆除した動物の尻尾を利用し、世界に一つだけの国産のマイ筆を作る取り組みを進めている。②加太にある狩猟ポイント。止まっている獲物でなく、動いている獲物に狙いを定めるのが美学と、自分なりのルールで狩猟を行う。③狩猟用のベストには、赤はわな、紫は猟銃の狩猟者登録を表す記章をつける決まりがある。④海や山でアウトドアを楽しむために、加太の自宅に併設されている「ハンターズイン」は、家族連れに人気の体験施設。⑤猟銃を構え照準を合わせた瞬間に漂う緊張感。目で見ただけでなく、体全体の五感で感じることが大切。

## 女性ハンターのプライベートは

①普段はエステティシャンと家事をテキパキこなす優しいお母さん。②ご主人とはコスタリカ共和国で運命の出会い。共通の趣味であるサーフィンや素潜り等が楽しめる加太を居住地に選んだ。③狩猟で得たジビエが食卓に並ぶ。溝部家では、ジビエ料理は特別ではなく普段の夕食の一品。④猪肉をミンチにした麻婆豆腐は得意料理。「加太で捕れるイノシシは、ミネラルを多く摂取しており美味しいんですよ。」



自宅近くの加太は、森も豊かで海も美しい絶好の猟場。「水産資源保護のために、カワウを駆除することもあります」と溝部さん。

## 和歌山の自然を駆け回る女性ハンター

一般社団法人 和歌山県猟友会 女性部 部長 ● 溝部名緒子 みぞべな おこ

「猟が解禁されている3か月間は、気持ちが高揚します。私にとっては大切な仕事ですから、少々の悪天候でもフィールドに出かけます。我が家は、お肉は買うものではなく獲るものなんです(笑)」と、ユーモアを交え話す溝部名緒子さん。ハンターになったきっかけは、出産後に崩れていた体調が、猪肉を食べて良くなったからだという。それで狩猟にも興味を持ち、雉撃ちを見学。「猟を間近で見た時の銃声に、心奪われ、狩猟に引き込まれました」。これだけ聞くと、ワイルドなイメージを持つかもしれないが、本職はエステティシャン。さらには小学5年生と1年生の子育て真っ最中のママでもある。「子供の頃、冒険の本が大好きで、見よう見まねで仕掛けを作ったりしていました。その頃から、狩猟気質だったのかもしれないね」と、その笑顔と華奢な体からは、「ハンター」という言葉は到底想像できない。

活動フィールドは、和歌山市内はもちろん、依頼に応じて県内各地に仲間たちと出向くことも。お気に入りスタイルはデニムの上下。時には気持ち上がるピンク色の服装で出かけることもある。しかし狩猟は1対1の真剣勝負。猟銃を構え、引き金を引く瞬間に高まる緊張感。「でも撃つ瞬間は興奮を抑え無心にならなければいけません」。また、自らを「狩りガール」と称し、SNSでの情報発信やイベント開催などを通じて、一般の方

一般社団法人 和歌山県猟友会  
住所 / 和歌山市湊通丁南4-18  
電話 / 073-436-0676  
<http://wakakai.ec-net.jp/>

や料理人に捌き方やジビエ料理を教えている溝部さん。「狩猟免許を持っている人も、高齢化や維持が困難で辞める人も多く、最近では有害鳥獣の捕獲依頼が増えていますが、捕獲を担う狩猟者が足りません。もっと女性の狩猟人口を増やせればと思っています。その一環として県猟友会女性部では、アライグマやイノシシ、シカの毛を使って化粧筆を作るプロジェクトも始めました。そう語る溝部さんの横顔には、何事にも積極的な彼女ならではの行動力が輝いて見えた。

## 「めでたい電車」と 歴史ある町・加太



紀淡海峡を望む美しい海岸線が魅力の和歌山市加太。マリレジャーが楽しめるだけでなく、鑑流しで有名な淡嶋神社や、日本遺産「葛城修験」の関連地など歴史的な魅力も有する町。南海和歌山市駅から、加太を代表する海の幸「鯛」をイメージした電車が走り、開運電車と人気を博している。